

サイレントからトーキーに移行する時代、

蒲田撮影所のスタッフは

小津安二郎監督を初めとして、

大部分が二十代の青年だった……

総指揮 **奥山 融**

製作 **野村芳太郎**

脚本 **井上ひさし**

脚本 **山田太一**

脚本 **朝間義隆**

脚本 **山田洋次**

50 松竹大船撮影所50周年記念

山田洋次監督作品

キネマの天地



渥美 清

中井 貴一

有森 也実

(新スター)

松坂 慶子

すまけい

美保 純

倍賞 千恵子

サイレントからトーキーに移行する時代、即ち日本映画の青春期に、活動写真に憧れ、眼を輝かせて蒲田撮影所に入ってきた若者たち、さして広くもない敷地に騒々しく蒔めいていた青春群像――

彼等が何を悩み、何を苦しみ、そしてどのように燃えていたかをドラマチックに描こう、というのがこの作品の核心です。

蒲田から大船に撮影所が移転して五十年を迎える松竹だけではなく、今日の日本映画界にとっても意義のある仕事にしたい、と考えます。

山田 洋次

倍賞千恵子

渥美清
中井貴一
有森也実
(新スター)
松坂慶子
すまけい
美保純
倍賞千恵子



野村芳太郎

「芸術はゼイタク品だが、娯楽は必需品である」と語った人がいる。忙しさに明け暮れて荒んだ気持ちを感じたとき、人々は娯楽を求め、ていく。それは今も昔も変わらない。

映画にも、その人々の娯楽を一手に引き受けていた、若々しい時代があった。

松竹大船撮影所50周年記念作品「キネマの天地」は、人々の耳目を一点に集めた、まさに映画の青春時代を描くものである。未知なる映像文化に大いなる夢と希望を抱いて、胸を張って撮影所の門をくぐった若い活動屋たちの青春もまた、素敵にひとつの歴史を残してきた。

この作品の主な舞台となるのは、松竹が撮影所を大船へ移転する直前の昭和8、9年の蒲田撮影所。城戸四郎所長以下、若き小津安二郎や島津保次郎、斎藤寅次郎らが腕をきき合い、田中絹代がスター女優として実力をつけてきた時代である。世の中は、大正デモクラシーが終わりを告げ、労働運動も絶望的な状態で、人々は、むさぼるように映画を求めた。こんななかに映画を送り出す撮影所は、毎日がフル回転、新しいスターの誕生、新しい傑作の誕生に所内全体が活気に満ち、所内で働く人々も、観客を喜ばせるためには命までもすりへらす、そんな素敵な状況であった。

物語は、浅草の活動小屋で売り子をしていた娘が、松竹キネマの監督に見出され、ふたり暮らしの父親に口汚くののしられながらも、そんな活気あふれる蒲田撮影所の大部屋に入るところからはじまる。娘は、その誰もが、娘の住んでいる長屋には、決して見かけることのできない種類の、夢を作る仕事にとり憑かれた个性的な人びとにとり囲まれ、人を愛し、悩み、苦しみ、役をもらって、打ちひしがれて、それを乗り越え、やがてトップスターの女優となっていく。眼を輝かせて映画と真剣に取り組む若き活動屋の群像が、ひとりの女優を中心に、当時の撮影所の雰囲気を再現しながらドラママツツクに描かれる。

監督・脚本は山田洋次。また、井上ひさし、山田太一、朝間義隆が脚本に参画する。製作は野村芳太郎。本物の映画作りがはじまっている。

8月2日(土)全国松竹系一斉公開!

●特別鑑賞券 一般¥1200 (当日一般 ¥1500の処) 学生¥1100 (当日学生 ¥1300の処) 発売中!

道玄坂109隣り、ザ・プライム 9 F

渋谷松竹セントラル⁽⁷⁷⁰⁾
1990